

キャンドルのつどい

—火の長の詞(例)—



始めのことば

赤く染まった太陽が静かに三瓶の大地に沈み、夜のとぼりはおろされました。大自然の中に浸り、友情と団結を深め、力強く生きることを願ってここに集う皆さん。ここに灯されたキャンドルの火は弱くとも、ひとたび燃えさかれば、すべての醜さを焼き尽くし、世の中を明るく、正しく、力強く、生きるための情熱を獲る大きな原動力となるものと信じています。

聖なる火の下、こよい楽しく過ごそうではありませんか。

終わりのことば

夜もふけ、静寂があたりをおおいはじめました。いつの間にか、この楽しかったひとときが過ぎ去ろうとしています。

このキャンドルの火がやがて皆さんの心に灯され、友情の火として、明るく輝きいつまでも心の中に大切に育てられることを祈ります。

希望に満ちたこれからの人生に、くやしいこと、苦しいこと、悲しいことが待ち受けているかもしれません。そのときにはこの炎・この夜を思い浮かべ、友情の火を支えとして力強く生き抜いてください。